

6. 閉会挨拶

閉会挨拶

交通エコロジー・モビリティ財団理事長

山下恭弘

交通エコロジー・モビリティ財団の山下と申します。本日は大変お忙しい中、北海道をはじめとする遠方からの方々も含めて多数ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、いよいよ京都議定書の約束期間に入りました。今年の EST フォーラムでございますけれども、一昨年のスタートセッション、それから昨年のフォーラムに続きまして、3回目の開催となったわけでございます。今回は過去2回とはちょっとやり方を変えてみました。昨年までは、テーマ別の3つの分科会を設けまして、意見交換をやらせていただいたわけでございますけれども、それですと、どれに出て良いか分からない、どの話も聞きたいという参加者が大変多かったわけでございますので、今回は、各界からのパネリストの皆さまに一堂に会していただきまして、じっくりとご議論いただくというスタイルを取ってみました。

それから、昨年のハイリゲンダム・サミットでは、日本からの提案もございまして、2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を、少なくともですね、少なくとも半減するための真剣な検討を行うという合意ができたわけでございますが、今年の7月の洞爺湖サミットに向けて、この検討がさらに進化加速化されるだろうと期待しております。そこで、本日のフォーラムでも、こういった長期的な視点も踏まえての議論を行っていただきました。

本日のフォーラムで得られたものを、参加された皆様方、それぞれの地域、あるいは、それぞれのお立場での取組みに活かしていただくことによりまして、わが国おける EST の実現のための取組みがさらに広がり、また深まることを期待しております。

ところで、わたくしども交通エコロジー・モビリティ財団でございますけれども、以前から、グリーン経営の認証をはじめ、様々な交通環境対策の仕事をやってまいりました。この EST に関しましては一昨年、学識経験者、それから関係行政機関、また、関係交通業界団体の皆さまで、「EST 普及推進委員会」というものを立ち上げていただいておりますが、その事務局を務めさせていただいております、「ポータルサイトの開設運営」、あるいは「メールマガジンの配信」といったような活動をやらせていただいております。このフォーラムも今回で3回目となったわけでございますけれども、昨年のフォーラムで、参加者の皆さまから、こういった場を、地方でも是非設けて欲しいといった意見も多数寄せられましたので、昨年の秋からは、「EST 創発セミナー」と称しまして、地方都市での講習会も

開催いたしております。また、パネルディスカッションの中で、国土交通省の桑田課長の方からご紹介ありましたように、これからは、ESTに取り組む地方自治体などをPRする場といたしまして、ESTの登録制度といったことも始めようと思っております。

パネリストの浅野さんから「ESTという言葉は、国民のおそらく99.999パーセントの人はご存知ないだろう」という話がありましたけれども、私ども、微力ではございますが、今後ともESTの普及の為に少しでも有効であろうという活動を、積極的に展開して参りたいと思っております。引き続き、皆様方のご協力、ご指導をよろしくお願いしたいと思います。以上、簡単ではございますけれども、閉会に当たっての挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。